

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)
(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

1. 講師 岩手医科大学 歯学部 補綴・インプラント学講座
教授 近藤 尚知 先生
2. 演題 最新の補綴主導型インプラント治療と口腔内スキャナーの
臨床応用
3. 日時 平成28年5月26日(木) 17:00~18:00
4. 場所 歯学棟南4階 歯学部特別講堂
5. 抄録

無歯顎患者の咀嚼機能回復を主な目的として、Brånemark 博士がはじめてインプラントを固定性補綴装置の支台として臨床応用を開始したのは1986年であり、約50年の時を経て、多くのエビデンスによって予知性の高い治療であることが証明され、その術式も大きく変わってきた。近年では、術前にCTを用いた画像診断を行うのは当然で、そのデータから3次元立体画像を構築し、インプラントの埋入シミュレーションを行う術式が通法にまでなりつつある。また、補綴装置製作においては、口腔内スキャナーとCAD/CAMの導入によって、技工のワークフロー自体が全く異なるものとなりつつある。本講演においては、近年大きく発展したインフォメーション・テクノロジーがインプラント治療をどのように変えたかを紹介し、我々歯科医師が今後は何を習得していくべきかを検討したい。

連絡先: 三浦 宏之(岡田 大蔵)(摂食機能保存学分野 内線5521)